

安全データシート (SDS)

1. 製品および会社情報

製品名 : R V ウェットメント 硬化剤・春秋用
会社名 : 田島ルーフィング株式会社
住所 : 東京都千代田区外神田 4-14-1
担当部門 : テクノサービス
電話番号 : 03-6837-8880
FAX番号 : 03-6837-8890
作成日 : 2015年10月21日
改訂日 : 2019年04月24日

2. 危険有害性の要約

【GHS分類】

引火性液体 : 区分外
急性毒性 経口 : 区分4
経皮 : 区分3
吸入(蒸気) : 分類できない
吸入(粉塵・ミスト) : 区分4
皮膚腐食性／刺激性 : 区分1
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 区分1
呼吸器感作性 : 分類できない
皮膚感作性 : 区分1
生殖細胞変異原性 : 区分1
発がん性 : 分類できない
生殖毒性 : 区分1
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露) : 区分2
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露) : 区分2
吸引性呼吸器有害性 : 分類対象外
水生環境有害性(急性) : 区分3
水生環境有害性(長期性) : 区分3
オゾン層に対する有害性 : 分類できない

【GHSラベル要素】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

- H302: 飲み込むと有害
- H312: 皮膚に接触すると有害
- H332: 吸入すると有害
- H314: 重篤な皮膚の薬傷
- H318: 重篤な眼の損傷
- H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- H340: 遺伝性疾患のおそれ
- H360: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- H371: 臓器（呼吸器、心血管系、腎臓、神経系）の障害のおそれ
- H373: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
- H402: 水生生物に有害
- H412: 長期継続的影響によって水生生物に有害

【注意書き】

安全対策 :

- P201 : 使用前に取扱説明書を入手すること
- P202 : 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- P260 : 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 : 取扱い後はよく手を洗うこと。
- P270 : この製品を使用するときに、飲食又は喫煙しないこと。
- P271 : 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- P272 : 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- P273 : 環境への放出を避けること。
- P280 : 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置 :

- P304+P340 : 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息されること。
- P310 : 直ちに医師に連絡すること
- P302+P352 : 皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。
- P332+P313 : 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
- P312 : 気分が悪い時は、医師に連絡すること
- P362+P364 : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- P303+P361+P353 : 皮膚（又は髪）に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。
皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
- P363 : 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること
- P305+P351+P338 : 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。
- P310 : 直ちに医師に連絡すること
- P301+P330+P331 : 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- P301+P312 : 飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- P314 : 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること
- 保管 : P405 : 施錠して保管すること。
- 廃棄 : P501 : 内容物／容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従い廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

单一製品・混合物の区別: 混合物

化 学 名: 変性ポリアミドポリアミン

成分及び含有量: (a) フェノール 約 1.9%

(b) メタキシリレンジアミン 1~8%

(c) テトラエチレンペンタミン 約 2.1% (意図せぬ製剤)

(d) その他

化審法番号 : (a) 3-481 (b) 3-308 (c) 2-162 (d) 登録有

CAS No : (a) 108-95-2 (b) 1477-55-0 (c) 112-57-2 (d) 登録有

4. 応急措置

吸入した場合:

被災者を直ちに新鮮な空気の場所に移動させ、必要に応じて医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合:

付着物を拭き取り、水と石けんでよく洗う。

皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断／手当を受けること。

目に入った場合:

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄をつづけること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当を受けること。

飲み込んだ場合:

多量の水を飲ませて吐かせる。自発的に嘔吐できる場合は、さらに水を与えて吐かせる。

但し、無理に吐かせようとしてはならない。

被災者に意識がない時は何も与えてはならないし、吐かせようとしてもいけない。

いずれの場合も、直ちに医師の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤:

初期火災には、粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂などを用いる。

大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

特定の消火方法:

火災発生場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護:

消火作業の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具等を着用し風上から消火作業を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置:

漏出した場所の周辺への関係者以外の立入りを禁止する。

暴露防止のため、保護具を着用して作業を行う。

蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。

付近の着火源を取り除き、消火機材を準備する。

環境に対する注意措置:

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起さないように注意する。

回収、中和、封じ込め及び浄化方法と機材:

少量の場合は、吸着剤（おがくず・土・砂・ウエス等）で吸収させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

多量の場合は、土砂等の不燃物で囲って流出を防止し、漏出したものをすくいとり、空容器に回収する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い :

【技術的対策】

労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。
吸入、接触を避ける。
暴露の危険性が生じる場合には保護具を着用する。
よく換気された場所で使用する。
喫煙、裸火、熱または発火源を避ける。
取扱い時には、飲食または喫煙をしないこと。
取扱う場合、スパークしない道具を使用する。
不適合物質との接触を避ける。
取扱い後は、常に、石鹼水で洗浄する。
正しい作業実施法を定め遵守する。
物質で濡れた衣類が浸透し皮膚に接することは避ける。

【注意事項】

強酸、エポキシ化合物と反応するので、十分注意する。
混合バッチスケールが大きくなるに従って発熱温度も高くなるので、十分注意する。
容器は破損、腐食、割れ等のないものを使用する。
使用済み容器は一定の場所を定めて集積する。

保管 :

消防法上の引火性液体であるので、消防法等の法規制に従うこと。
容器を密閉して、涼しい所／換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。

8. 暴露防止措置

管理濃度 : 未設定

許容濃度 : フェノール 5ppm 日本産業衛生学会 (2018)

設備対策 :

蒸気の発生源を密閉する設備又は局所排気装置を設ける。
取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
「火気厳禁」「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示すること。

保護具 :

必要に応じて適宜、次の保護具を着用する。
送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器、有機ガス用防毒マスク。
保護眼鏡、不浸透性の保護手袋、保護長靴、保護服。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。
作業中は飲食、喫煙はしない。飲食、喫煙前には石鹼で手を洗う。
一度喘息の症状を示したヒトは、同じ症状を起こすので以後接触しないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など	: 黄褐色透明液体
臭い	: アミン臭
pH	: データなし
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: データなし
引火点	: 144°C (クリープランド開放式)
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度 (空気=1)	: データなし
比重	: 1.015 (25°C)
溶解度	: 実質的に不溶/水
オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし
粘度	: 200~600 mPa·s (25°C)

10. 安定性及び反応性

安定性	: 室温、乾燥状態では安定。
危険有害反応可能性	: 強酸、エポキシ化合物と反応し発熱する。
避けるべき条件	: 高温加熱、混触危険物質との接触、火源
混触危険物質	: 強酸、エポキシ化合物
危険有害な分解生成物	: データなし

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分4【3項の各成分毎のデータから算出される混合物の急性毒性推定値から】
急性毒性 (経皮)	: 区分4【3項の各成分毎のデータから算出される混合物の急性毒性推定値から】
急性毒性 (吸入、蒸気) (吸入、粉塵・ミスト)	: 分類できない : 区分4【メキシリレンジアミンの情報から】
皮膚腐食性及び刺激性	: 区分1【成分の情報から】
眼に対する重篤な損傷性	: 区分1【成分の情報から】
又は眼刺激性	
呼吸器感作性	: 分類できない
皮膚感作性	: 区分1【メキシリレンジアミンの情報から】
生殖細胞変異原性	: 区分1【フェノールの情報から】
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 区分1【フェノールの情報から】
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: 区分2【フェノールの情報から】
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: 区分2【フェノールの情報から】
吸引性呼吸器有害性	: 分類対象外

12. 環境有害情報

水生環境有害性（急性）：区分3【成分の情報から】
水生環境有害性（長期性）：区分3【成分の情報から】
オゾン層への有害性：分類できない
生態毒性：甲殻類（オオミジンコ）の48時間LC50=3mg/L（トリエチレンテトラミン）
藻類（セネデスマス）の72時間ErC50=14mg/L（メタ-キシリレンジアミン）
残留性・分解性：BODによる分解度：85%（メタキシリレンジアミン）
生体蓄積性：データなし
土壤中の移動性：データなし
他の有害影響：物理化学的性質からみて、水域、大気に移動しうる。
環境基準：情報なし

13. 廃棄上の注意

焼却炉で少量ずつ焼却処理するか、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
空容器を廃棄する時は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類：クラス8（腐食性物質）
国連品名：アミン類又はポリアミン類（液体）
POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S
(Modified aliphatic polyamine)

国連番号：2735

容器等級：III

国内規制：

消防法：該当

緊急時応急措置指針番号：153

特別な安全対策：

火気厳禁、天地無用。容器にキズをつけぬよう、丁寧に取扱う
消防法の危険物第1類、第6類、及び高圧ガスとの混載は避ける。

15. 適用法令

消防法：危険物 第4類 第3石油類（非水溶性）危険等級III
毒物及び劇物取締法：非該当
労働安全衛生法：「表示・通知対象物質」
No.474／フェノール
No.555／メタキシリレンジアミン
P R T R 法：「第1種指定化学物質」
No.276／3,6,9-トリアザウンデカン-1,11-ジアミン
(別名：テトラエチレンペンタミン)
No.349／フェノール
化審法：No.62／フェノール 「優先評価化学物質」

16. その他の情報

①参考資料 :

「新・エポキシ樹脂・硬化剤の正しい取扱いの手引き」 (エポキシ樹脂技術協会編)

「GHS対応SDS・ラベル作成ガイドブック[混合物用(塗料用)]」

(平成24年7月 社団法人・日本塗料工業会)

「化学物質総合情報提供システム (CHRIPI) 」 (独立行政法人・製品評価技術基盤機構)

「作業環境評価基準別表」 (中央労働災害防止協会・安全衛生情報センター)

「許容濃度等の勧告」 (2014年度) (産業衛生学雑誌)

②本文書中に示す含有量は範囲記載の場合を除いて「推定平均含有量」を表します。

③本文書の記載内容は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。また、すべての化学品には未知の有害性が考えられる為、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位には安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。

以上